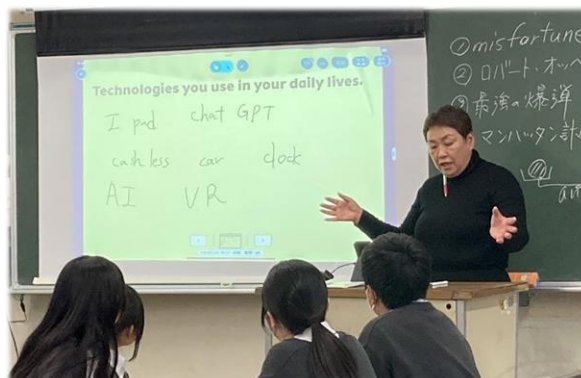




2月4日（火）、県教育委員会主催の本年度6回目となる英語指導力アップスキルプロジェクト研修会を本校で実施しました。1年生の英語コミュニケーションⅠの授業で、竹松ゆかり先生（英語科）と小川幸司先生（地歴公民科）による教科横断型授業を公開しました。

英語の授業力向上をねらった教員研修会の研究授業として依頼されたもので、校長も開会行事で他校の参加された先生方にご挨拶をし、研究授業では、ひとつのグループの席に座らせていただき、少しだけグループワークに参加しました。

使用教材のテーマは、「科学技術と発見」であり、導入部分では、竹松先生が英語で授業の目的や指示を英語で伝え、すぐに、小川先生による



「物理学者ロバート・オッペンハイマーの生涯」を英単語「serendipity（幸運な発見）と misfortune（不運と出会う）」を使って、偶然による幸運な？発見である原子力爆弾を作った歴史上の史実をていねいに解説されました。「Serendipity で発見したものが“good”なものではなく、“bad”なものになることもある」という投げかけから始まり、原爆実験の様子を昨年の映画「オッペンハイマー」の動画の一部から感じ取らせ、原爆実験後のオッペンハイマーの考え方の揺らぎまで説明されました。最後の、「Serendipity なのか misfortune なのかを決めるのは、偶然のあとの努力なのではないか」との投げかけでは、生徒は説明された史実から違和感や疑問をどう抱いたのか私は聞いてみたかったところです。

次の展開では、竹松先生が英文によるワークシートを使って、身近な科学技術を人間社会にとって有益にしていくにはどのような事柄が不可欠であるかをグループで考えさせました。



英語で話しかける指導主事と
英語で談笑する生徒

シートに記入して意見交換に備える

多くの先生方がグループワークで生徒が書いたり
話をしたりする姿を観察

私の入ったグループの生徒の感想は、「普段の英語の授業に比べ、教科書の内容を深く考えることができた」「映画の画像を見て心に突き刺さった」といったものでした。私は、授業参観を通して、生徒が英語の長文を批評的に読み取れる力がつくことを期待したいと思いました。